

令和元年度普及活動外部評価報告書

令和2年3月  
長野県農政部農業技術課

県下 10 か所の農業改良普及センター（以下「普及センター」）では、「しあわせ信州創造プラン 2.0」及び「第3期長野県食と農業農村振興計画」に基づき、長野県農業と地域の発展を目指して、農業の生産性や収益性を向上させるための技術指導、担い手の確保、育成などの業務を行っています。これらの業務を効果的かつ効率的に展開するため、県では普及センターの活動について、外部からの幅広い視点で客観的な評価を行い、その結果を今後の活動に活かしています。

本年度は様々な分野で活躍される5名に依頼し、上伊那・南信州の2普及センターと農業技術課を対象に外部評価を実施しました。

今後、委員から提言いただいた意見等を、県下全ての普及センターの今後の業務に反映させ、目標の達成に向けて活動の充実を図っていきます。

1 外部評価委員

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 ・ 氏 名	
信州大学農学部 教授	春日 重光
J A 全農長野生産振興部 部長	竜野 竜
中棚荘（小諸市） 女将	富岡 洋子
有限会社宮城商店（千曲市） 専務取締役	宮城恵美子
株式会社ベジーツ（御代田町） 代表取締役社長	山本 裕之

2 評価の概要

対象機関 (実施日)	説明事項・評価課題
上伊那 (10月10日)	1 上伊那地域の農業及び普及活動の概要 2 重点課題「切り花率の向上と担い手確保により日本一を目指すトルコギキョウ産地の確立」
南信州 (10月31日)	1 南信州地域の農業及び普及活動の概要 2 重点課題「樹体ジョイント仕立て栽培の拡大によるなし園地の若返り」 3 特徴的な普及活動「伝統野菜の生産振興と認知度向上」
農業技術課 (10月10日)	1 長野県農業の概要と普及組織の体制 2 普及活動の概要 3 普及指導員の資質向上

### 3 普及センター重点活動課題の総合評価

普及センター	課題名	総合評価※
上伊那	切り花率の向上と担い手確保により日本一を目指すトルコギキョウ産地の確立	4. 7
南信州	樹体ジョイント仕立て栽培の拡大によるなし園地の若返り	4. 0

※ 総合評価は、出席委員の平均値

[評価基準と判定区分]

- 5：目標以上の成果が認められる。
- 4：目標どおりの成果が認められる。
- 3：活動は十分に認められるが、成果はやや不十分。更なる活動展開を期待したい。
- 2：成果が認められないが、活動展開の糸口は見えている。
- 1：活動が不十分で成果が認められない。

### 4 外部評価委員からの意見、提案を踏まえた今後の対応

(1) 上伊那農業改良普及センター

ア [重点課題] 切り花率の向上と担い手確保により日本一を目指すトルコギキョウ産地の確立

委員評価（意見、提案等含む）	今後の対応
○担い手確保等の将来を見据えた普及活動であり評価できる。	担い手の確保は、今後も重要度の高い課題ですので、評価していただいた意義を改めて認識し、今後の普及活動に活かしてまいります。
○寿命の長い産地を目指す中では、土壌消毒だけでなく、総合的なほ場あるいは土壌・栽培管理技術をさらに構築する必要がある。	委員のご指摘とおり、土壌消毒に頼らない土作りや栽培管理技術は重要な課題と認識していますので、JAとも連携しながら少し長い目のスパンで普及活動を推進してまいります。
○スマート農業については、一部の農家だけでなく、すべての農家がやるやらないにかかわらず熟知していたほうが良いと感じる。	本年から、国の実証事業や県独自のスマート農業のお試し事業を実施しています。今後これらのデータ分析を行い、効果や課題を明確にするとともに、新年度からは農家向けのミニ研修会を開催し、こうした活動を含め、多くの農家の皆様に積極的に、情報提供してまいります。
○手間をかけ過ぎずに、利益が出るように良く考えられている。	省力化については高齢化に伴い大きな課題であると認識しており、JAとも連携しながらさらに普及活動を推進してまいります。
○やむを得ない部分はあるが、できるだけ土壌消毒や農薬を使わない方法も検討されることを期待する。	消費者が求める農産物を生産することが、生産者の重要な責務であると考えています。生産性や販売価格、農家所得等の面での課題はありますが、環境への負荷軽減を意識した普及活動を推進してまいります。

イ 普及センター総括所見

委員評価（意見、提案等含む）	今後の対応
○普及活動の中の重点推進方策などにおける優良な面よりも、問題点等を抽出、整理し活動を総括する必要がある。	第3期長野県食と農業農村振興計画に記載された重点推進方策で普及が主体的に取り組む課題を普及課題としています。その中で一般活動課題については、重点活動課題のように問題点等の整理をしていますが、所内では中間評価・年度末評価で整理をしています。

○地域農業における問題点を、「優良農家→農協→市役所→普及センター」といったルート以外に、吸い上げて課題化するルートの開拓も必要である。	普及センター職員は、直接農家と接した活動をしており、これら農家からの要望については、日頃の普及活動で対応していますが、その中でも地域農業に波及するような課題については、普及計画にも位置づける等の対応をまいります。
○流行りの問題、技術も大切だが、有害鳥獣駆除（特にカラス等）といった息の長い取り組みも是非力を入れていただきたい。	有害鳥獣対策については、各種補助事業や集落ぐるみで対策をしてきた結果、被害額は減少していますが、まだ、深刻な課題であると認識しています。今後も、関係機関連携のもと対応をまいります。
○新規就農者が増えていくように、農業技術だけでなく多方面においての指導、相談を望む。地域の特色を生かした農業の在り方、将来的な希望等、農家の先輩たちとの意見交流があっても良いのではないかと。	担い手の課題は、農業技術だけではなく、たとえば経営管理能力の向上等についても今後はさらに指導を強化し、自立できる新規就農者を一人でも多く確保・育成してまいります。 また、農家の先輩たちとの意見交流については、新規就農者激励会とアグリフォーラムという企画を通じて、年2回開催していますが、今後もより多くの新規就農者が参加するように、工夫して実施してまいります。

(2) 南信州農業改良普及センター

ア [重点課題] 樹体ジョイント仕立て栽培の拡大によるなし園地の若返り

委員評価（意見、提案等含む）	今後の対応
○なしの栽培者が減少する中で、強みである新技術の普及は適切な課題設定だと思う。	早期成園化と省力化が期待できる技術として引き続き農家への提案を行いながら、南信州地域のなし産地力の維持に向けた普及活動に取り組んでまいります。
○ほ場で確認したことでメリットを十分に感じた。反面、課題である苗本数が多くなる、苗の仕立てが難しいことも理解できた。	ご意見のとおり、定植後の苗の仕立てがジョイント仕立て栽培の重要な管理ポイントの一つになります。報告した調査研究結果等を基に、現地指導会を開催するなどの対応をまいります。 また、必要苗本数の増加による新改植の初期投資増額分については、報告した収支シミュレーションを利用しながら果樹産地協議会と連携し、国の補助事業活用を促進してまいります。
○今後に期待と希望の持てる現地確認であった。課題が明確なので、解消しながらの普及に期待する。	果樹は永年性作物のため、成園化した後の新たな課題が生じる可能性もあることから、重点活動3か年は終了しましたが、引き続き一般活動に位置付けてジョイント仕立て栽培法の普及に取り組んでまいります。

イ 普及センター総括所見

委員評価（意見、提案等含む）	今後の対応
○活発な議論がなされていて将来性を感じた。	当日の発表2課題は、職員全員が活動状況を承知し、また直接業務に携わる職員も多く、職員側からも積極的な発言ができたと考えています。 引き続き、活動課題ごとに実施するチーム会議、係会議や職員全員が参集する全体会議等で、活動の

	進捗状況を共有し課題意識を持って取り組んでいけるように、活発な所内議論がしやすい職場環境づくりや会議進行に努めてまいります。
○伝統野菜の普及の取組が印象に残った。そのまま時代に埋もれてしまったであろう、「千代ねぎ」の価値を再発見し、ブランドとして再構築し、地域活性につなげている取組は、最初に営利がくる民間主導では難しかったと思う。これこそ普及センターの活動意義だと感じる。これからも農業を通じた地域の活性化につながるような取組を期待する。	普及活動は、「なしジョイント栽培」のような新技術による農業経営の向上だけでなく、農村地域の課題解決による農村振興も大きな役割に位置付けられています。 当センター管内は中山間地で高齢化率の高い地区、集落が多いことから、委員から評価いただいたとおり、今後も地域住民の方と直に接するなかで地域の課題把握に努めつつ、立地条件や従事者数や年齢などの構造的な分析、マーケティングに関する情報収集や提供等を行いながら、地域農業者が主体となった地域活動を促すような普及活動にも取り組んでまいります。

### (3) 農業技術課

#### ア 組織体制や人員の動向について

委員評価（意見、提案等含む）	今後の対応
○農業改良普及センターの体制については、現状の地域への配置と、人員が減少してくる場合は、産地ごとの品目構成に対応できる配置をお願いしたい。	職員の配置については、県下各地域における農業の状況と栽培品目に応じた担当者を配置し、農業者のニーズに対応した指導支援ができるよう努めてまいります。 なお、令和2年度から高度経営支援、先端技術支援を行う職員を新たに県下2か所に配置する予定です。
○若い職員が年上の先輩から学ぶことは多いと思う。中間層が少ないなか、若い職員の育成を推進する必要がある。	職場内 OJT 研修や現地活動への同行等により若い職員が先輩職員から学ぶ機会をつくるよう努めています。また、本年度から果樹、野菜など特技ごとの世代間研修を実施し、専門技術が伝承できるよう努めています。
○農業者の実態や目標とする農業の将来ビジョンに見合った普及指導員数が必要である。増員が必要であると感じた。特に、女性の普及指導員の養成が必要で、また、登用を推進する必要がある。	県行政経営方針に基づき全庁的に職員定数の見直しが行われており、普及職員の増員は難しい状況です。また、現在全普及職員のうち女性が占める割合は約3割ですが、女性ならではの視点で効果的な活動を展開していることから、専門技術やキャリアに応じた適材適所の配置に努め、引き続き、養成と登用を行ってまいります。
○ピラミッド型の組織も結構だが、現地で対応する職員の資質が重要である。	職員の資質向上については、「長野県普及指導員人材育成計画」を策定し、普及指導員のめざすべき姿を明確にするとともに、「普及職員研修実施計画」に基づく研修を階層ごとに計画的に実施しているところです。引き続き、農業者や地域から信頼され、信念と責任を持って職務を遂行する職員の育成に努めてまいります。

イ 普及指導員の資質向上の取組について

委員評価（意見、提案等含む）	今後の対応
○引き続き試験機関と連携し新たな技術やタイムリーな技術指導ができるよう職員の資質向上が必要である。	普及センターでは、独自に課題解決が難しい新しい農業技術等については、農業技術課専門技術員に相談し、必要に応じ試験場の助言、協力を得て、現地指導等を行っているところです。また、専門技術・知識の習得を図るため、職員の試験場研修も実施しております。今後とも試験場と連携し、現地課題に的確に対応できる職員の育成に努めてまいります。
○JAでは、指導者経験の浅い営農指導員が増えている。このため、若手の研修会等で連携できる機会があると良い。また、現場での農業者への指導手法に関する研修も要望したい。	県においても、近年、若手職員が増えているため、農業技術や普及方法に関する研修を普及経験1～3年目職員を対象に集中的に実施しています。今後、両者の研修効果を高めるため、JA営農技術員との合同研修（座学、現地）の持ち方を検討してまいります。
○経済状況は流動的で複雑した先行き不透明な時代だが、現場主義を持つとともに、広い視点で課題を捉えることが重要である。	普及活動では農業者に直接接して普及指導を行うことにより、主体的に経営改善に取り組む農業者や地域の育成を図ることとしています。今後も、現地で農業者や関係者の声を聴き、課題を捉えて、関係機関と連携し、農業経営や農村地域の発展を支援してまいります。
○画一化した通り一遍の指導ではなく、個々の農家の生活現状・環境・背景などに配慮した誠実な活動を希望する。	普及活動の展開にあたっては、対象農業者ごとに問題点やニーズを捉え、必要な農業技術や経営改善に向けた支援を行うことが必要です。課題は個々の農業者によって異なることから、その農業者に必要な支援内容・方法により活動を行ってまいります。
○先輩農家の活用も検討いただきたい。	普及センターでは、管内の農業経営士、農業士、先進的農家等に産地や地域のニーズに応じた試験ほ、実証ほの設置をお願いし、新しい農業技術・品種の地域への普及を進めています。今後も地域の皆様の協力をお願いしながら活動を続けてまいります。
○指導現場にICTを活用し、データを活用した効果的な指導方法について検討を望む。	令和元年度から普及センターへタブレット端末を順次配備しているところです。普及職員が農業技術課専門技術員やJA営農技術員とタブレット端末を介してリアルタイムにつながることで、農業者への病虫害防除・栽培指導などを迅速かつ効率的に進めてまいりたいと考えております。
○若手職員が多くなっているので、農業技術だけでなく、農業経営の指導力の育成が重要である。	若手職員の経営指導力の強化については、経験1～5年目の職員を対象に、簿記記帳や財務諸表の見方、経営分析手法の習得について集合研修を実施しています。また、農業経営の指導は農業者の財務状況等に触れながら支援を行うため、農業者との信頼関係を築くことが大切であり、経験が浅い若手職員には難しい部分もありますが、先輩職員に同行した経営相談などを通じて指導力強化に努めているところです。